

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4774800033		
法人名	有限会社美ら心		
事業所名	グループホーム あさぎりの里		
所在地	沖縄県宮古島市下地洲鎌518-1		
自己評価作成日	平成 25年 10月10日	評価結果市町村受理日	平成26年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaiyokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4774800033-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成25年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さん一人ひとりに居室担当を決め日々の生活の中で感じたことをミーティングで話し合っている。その中で1ヶ月間のケアを決め支援している。居室担当を決めたことで利用者さんとのコミュニケーションが増えミーティングにかぎらず普段の日もケアに関する提案を話し合う機会が増えた。ケアに関しては利用者さんをほめたり、励ましたりしながら共に協力し楽しみながら行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・管理者は『住み慣れた地域でその人らしく自由に過ごしてもらいたい』という強い思いを持ち、認知症高齢者に配慮した事業所を目指し、設計段階から関わってきた。身体拘束や言葉による行動抑制をしないケアを職員に徹底実践している。健康管理面においては、医療連携が構築され主治医から「訪問診療報告書」で利用者の日常生活の留意点や処方薬等について情報提供があり、介護計画や毎月の入居者個々のケア目標に活かされている。遠方の御家族には担当職員が、入居者の近況報告を「家族だより」として送付、入居者は明るい笑い声、和気藹藹とした会話等を職員と楽しみ、時には職員の子どもたちと入浴を楽しむなど過ごしている。管理者は資格修得や研修会参加への支援、職員意見を運営に反映させるなど、職員のモチベーションを上げる工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成26年1月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に自信自立を持たせる為、職員同士に話し合いをさせ理念に沿った介護を実践させている。入所者の状況に応じ主治医に相談、家族に連絡をとったり、職員が一人ひとりに寄り添い安心した生活が送れるように支援しています。	理念は、「抑制することなく、伸び伸びと過ごしていただきたい」と開設当初からの思いを、管理者と職員は共有し実践している。利用者の意志を尊重して「ちょっと待って」との対応には「いつまで待つ」「なぜまつの？」などその都度管理者は職員に気づきを与え、理念を具体化できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元公民館にて社会福祉協議会主催の「生き生教室」に月1回参加し、幼馴染や地域の方と健康体操・ゲーム・お茶二時間を楽しんでいます。地域の方から連絡をもらい運動会・行事の見学に出かけています。	小学校から運動会案内や演奏会への招待、三味線や社交ダンスのボランティアの受け入れを行っている。また、ミニディサービスへ参加する等地域との繋がりが。公民館で、認知症高齢者の行動やケアについて理解を深めていただく為、地域の方へ講話等も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所希望や見学時に、認知症についてのアドバイスをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には利用者・家族代表の方が参加し日々の活動、地域との交流・医療・研修等について報告している、日々の活動・地域との交流に関しては写真を添付し見てもらっています。	前年度の外部評価で目標に掲げた項目であり、今年度は家族や利用者の参加もあり、推進会議への事前案内や、前日の電話での確認など取り組みの成果が見られる。2カ月に一回の定期開催が目標に取り組みされてはいるが、4回の開催であった。	運営推進会議の法令事項として2カ月に一回以上の開催が求められている。前年度に引き続き、今後の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは連絡を取り合い、他の施設からの移動など連携している。他の施設での虐待や地域の人によるイジメなどによる利用者の受け入れ。	市町村担当者とは利用者家族からの苦情相談、他事業所からの受け入れ相談を行っている。県主催の研修派遣手続き等で協力が得られている。また、台風等災害時の要援護者の避難場所の指定も受けている。地域包括センターとは事業所の困難事例の相談、生き生き教室等で連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠・拘束などは行っていません。玄関や裏口には開閉時にブザーや鈴を取り付け、外に出て行く利用者には一緒に散歩したりドライブしたりと対応している。転倒の危険がある利用者さんの居室にはセンサーを取り付け迅速に対応しています。	平屋造りの建物はどこからでも自由に出入りができ、外に出て行かれる方には同行しながらその人なりの暮らしを支援している。職員は身体拘束について研修やマニュアル等で理解している。言葉による行動抑制もその都度振り返りを行い、ミーティング等で確認や相談をしながら取り組んでいる。	

沖縄県(グループホームあさぎりの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入所者の状態を観察し、少しでも異常があれば職員・管理者と話し合いを持ち主治医に診てもらい家族に報告しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、プリントにまとめた物を職員に配布し読んでもらっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望時に説明し、解約時にも時間をかけて御家族とも相談し対応方針を含めて納得が得られるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の来所持には、御家族とのコミュニケーションを率先してとるよう職員全員が心がけています。入所者の希望、家族への電話や外出等は迅速に職員が対応している。	家族とはコミュニケーションを図る為、利用料の支払いは事業所で行うことや遠方の家族には担当職員が利用者の日頃の様子を手紙にした「家族便り」を送付して意見が伝えられる機会を作っている。利用者の「家に帰りたい」「家族に電話したい」等の思いには家族に伝えたり電話してもらうなど取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月1回開催して意見・希望を聞いています。ミーティングで勤務体制の見直しや介護方針を意見交換している。又勉強会では入所者一人ひとりの対応について話し合っています。	管理者は毎月のミーティングや、随時に職員の意見や希望、相談等を聞いている。職員からは、勤務調整や朝食作りの負担について意見が出され、朝食の副食は配食を受ける等、職員の負担に配慮している。「利用者へプラスになることはやってみて！」という管理者の方針で意見が運営に反映しやすい。職員の資格修得や研修等も積極的に支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境、自由に意見が言いやすい雰囲気作りをこころがけている。資格をとる職員には勤務を皆でカバーしながら条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本当での認知症研修や地域・他施設での勉強会等に参加しています。		

沖縄県(グループホームあさぎりの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設との職員間の交流を積極的に行っている。今年9月からグループホームのケアマネが連絡を取り合い、2ヶ月に1度情報交換を行うことになっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段より本人の意見には耳を傾け不安や困った事がある場合には、ミーティング等を行いその人に合った対応ができるようにこころがけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望時、申し込み時には面談をし入所後も御家族の話に耳を傾け、どのようなケアがいいのか話し合いながら行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望時、申し込み時には本人・御家族の実情や希望にできるだけ対応し、その都度御家族と連絡・面談しサービスにつとめています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしながら話をしたり、利用者の表情によっては居室で話しを聞いたり、話しやすい環境作りをこころがけています。職員の個人的な悩みを聞いてもらい、励ましの言葉ももらうこともあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会される御家族も多く、入所者の現状を伝えながら今後の要望など話し合っています。御家族が遠方で面会に来れない方には、電話を下さるようお願いし、本人からも電話させています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等で自宅や本人の住み慣れた地域に行ったりしている。信仰を持っている方は週2回教会の集会に参加し馴染みの人との関係が途切れないようにしています。仲の良い親戚宅に週1回招かれ昼食をご馳走にったりしています。	本人の生活習慣(教会の集会)や職歴(漁師、農業、サービス業等)を把握し馴染みの場所や住み慣れた地域へドライブに出かけている。近くのスーパーに買い物に出かけたり、ミニディサービスへの参加、地域行事参加等で地域社会との関係継続を支援している。	

沖縄県(グループホームあさぎりの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症のレベルに差はありますが、職員が間に入り一緒に作業をしたりレクリエーションをしたりしています。元気な入所者の方には散歩時車イスを押してもらったり、他者の食事介助をお願いしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所への移動前、移動後に情報交換をし連絡、訪問するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見を聞きながら、生活しやすい環境づくりに努めています。帰宅願望の強い入所者には散歩やドライブで気分転換を図ったり、面会を増やすようお願いしています。	利用者の意向把握にウィクリーシートを活用したり、家族や友人、知人から情報を把握している。本人の思いや意見は夜勤帯に語る事が多く、日誌に記録し職員間で共有している。帰宅願望や家族へ電話したいなど不穏時にはドライブに出かけたり、家族に電話してもらったり知人に来てもらうなど協力を得て希望に応えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活を尊重して、御家族からの情報を聞きながらその人に合った環境づくりをしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事時間、入浴等各のライフスタイルに合わせた時間で対応し同性入浴を取り入れながら出来ることは本人にしてもらっています。入浴時間も本人に聞き、気持ちよく入ってもらうように心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・御家族・主治医の意見を聞き職員全員でモニタリングを行い入所者主体の暮らしに反映したものにできる限り近づけた計画を作成している。介護計画は面会時に見てもらい確認後、意見等があれば見直ししてから実地している。	毎月モニタリングを実施し、介護計画は入院時や更新時に担当職員や本人、家族、主治医の意見を聞き作成している。主治医の訪問診療報告書も介護計画の中に入れ、本人がよりよく暮らすために毎月のケア目標を職員間で話し合い情報共有し支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各々の日々を記録し居室担当を決め、職員間で情報を提供しながら本人にとって満足できるケアが提供できるように検討し計画を立てている。申し送り張に主治医からの介護、日常生活上の留意点を記入し職員に知らせている。		

沖縄県(グループホームあさぎりの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて御家族に面会に来てもらったり、外出・外泊等も積極的にしてもらうよう対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーや美容院を利用しています。美容院利用に関しては最初、付き添いが必要でしたが現在は美容師の方をお願いし、送り迎えのみとなっています。社会福祉協議会主催の「生き生き教室」に月1回参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時の主治医との関係を大切にしながら定期的に往診に来てもらい「訪問診療情報」が配布され日常生活の留意事項が記載されている。緊急時には職員が対応するが、他の病院受診には家族で対応してもらっています。管理者が日常的にDr と連携を図っている。	入居者は全員、毎月2回の訪問診療を受けている。主治医から「訪問診療情報」が交付され、日常生活や介護サービスの留意点を職員間で情報共有しケアに活かしている。家族には電話や面会時に受診結果等の報告を行っている。他科受診(皮膚科等)は基本家族対応としているが、難しい場合は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各々の体調や些細な変化を見逃さないよう、気づいたことがあれば管理者(看護師)に報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はたびたび病状確認に見舞い、主治医と相談しながらできるだけ早く退院できるように支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは主治医を交え面談し文章を取り交わしている。施設は、御家族の意向があれば看取りを行っていく方針である。	事業所は、看取りの方針と手順書を作成し、昨年入居者家族にアンケートを実施し、「意向確認書」を配布している。事業所での看取りを希望している家族に対しては、入居者の状況に応じて、話し合いを行う予定である。重度化や看取りについて研修会は実施されていない。	事業所として、職員の殆どが看取りの経験がない為、今後は、職員が必要時に対応出来るよう勉強会や研修会等の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急緊急時の対応マニュアルを作成し勉強会や話し合いを行い対応できるようにしている。		

沖縄県(グループホームあさぎりの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、台風時には早めの対応を行っています。緊急通報装置は設置済み、非難場所については利隣家の敷地内に避難できるようにお願いしてあります。	今年度、避難訓練計画書を作成し、消防署の協力を得て入居者、職員が参加し防災避難訓練を12月(日中想定)、6月(夕方想定)実施している。9月には、市の津波避難訓練に参加している。訓練の際、地域住民の参加は得られていない。	推進委員のメンバーや近所の方へ、事前に呼びかけを行い、避難訓練に地域住民の参加が得られるよう期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには名前呼びかけ、言葉掛けの内容・語調には十分注意し入所者の誇りを傷つけたりプライバシーを損ねることがないように取り組んでいる。排泄時はカーテンやドアを閉めてから介助する事を徹底指導している。排泄の失敗が見られてもプライドを傷つけないようにそっと片付けをしている。	職員は、利用者一人ひとりの思いを大切に、利用者同士で文字や計算を教える方、一緒に洗濯干しを教える方等、利用者の得意などを見極め促している。職員の言葉かけや対応が気になる時は、その都度管理者やケアマネで注意し合うよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの生活パターンを把握して、本人が自分の希望を訴え決定できるように環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の仕事の流れはあるが職員の仕事を優先するのではなく、入所者の体調や気分配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人には好きな服を選んでもらったり、選べない方には御家族から好みを聞いたりしてその人らしさを出すようにしている。外出時には、お化粧できるように化粧品を準備してある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べれない物は別のメニューに変更したり、食べやすい形態ににして職員と一緒に会話しながら食事をしています。入所者・職員は食材の買い物や調理の下ごしらえを一緒にやっている。又料理をお椀によったり配膳、下膳を手伝ってもらっています。	朝食の副食は配食を利用し、昼夕食は、専属の調理員が調理している。調理員が休みの日は、職員が交替で調理している。利用者は配膳や下膳等を手伝っている。食器は陶器を使用し、職員も入居者と一緒に食卓を囲み、食材や調理の話題を提供し会話を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々好みによりキザミにしたり、状態によっては主治医に相談しトロミにしたりしている。食事量・水分摂取量は毎食チェックして体調の変化には気をつけている。		

沖縄県(グループホームあさぎりの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自室で歯みがき・うがい薬で口腔ケアを行っている。入れ歯は週2回ポリドントを使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿・排便チェック表を活用しながら一人ひとりのパターンを把握し、声かけ誘導し失敗しても傷つけないよう手早く交換している。現在4人の利用者さんが紙パンツ+パットから布パンツ+パットに変更しています。	排泄チェック表を活用する事で、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。職員からの提案で、皮膚疾患の緩和にもなるため、紙パンツ利用から布パンツにパットの利用を試し、現在は4名の入居者が変更する等個別の支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で確認し、おやつ時に寒天・アロエを食べてもらったり食物繊維・水分・緩下剤等を使い分けています。往診時に主治医に排泄表を確認してもらい便秘予防をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、各々の体調を考慮し御本人に聞きながら入ってもらっている。できるだけ同性介助で対応し、拒否のある利用者さんには無理強いせずに、時間をおいて声かけし本人が納得してから入ってもらっています。	基本は週2回入浴日であるが、入居者の希望に沿って何時でも対応している。入浴を嫌がる場合は、時間をずらして声かけしたり、職員の子どもと入浴を促したら、一緒に入浴を楽しむようになった方もいる。入浴日以外の利用者は、足浴を行い対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理に消灯せずに本人の様子を見ながらリビングでテレビを見ながら職員と過ごしたり、畳間で休む事もあります。冬場は足浴を行いリラックスした時間を持つようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の薬剤情報は職員が見やすい所に保管し薬効や副作用を理解し、状態に変化が見られたら管理者・主治医に連絡するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の好みが違う難しいが、ドライブ・ボール遊び・音楽等多くの入所者が参加できる事を見つけ楽しむように支援している。又お伊モを使った郷土料理を作ってもらったりしています。		

沖縄県(グループホームあさぎりの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各々の体調や希望に沿って無理のないようできるかぎり外出・外泊の支援をしている。週2回の教会での集いや馴染みの美容室の利用。週1回親戚宅へ昼食をご馳走になっている。又週3日作業に出かけ、年1回ではあるが那覇へスポーツ大会に参加している。地域の方に連絡をもらい運動会やイベントの見学にかけています。	天候や体調を確認しながら、車いす利用の方も一緒に中庭や敷地内を散歩してる。落ち着かない方には、ドライブで対応している。買い物支援時は利用者に商品を選んでもらい、支払いも自分で出来るよう促している。お弁当を持参しドライブしたり、近隣の遊歩道に出かける等外出支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している方はいませんが職員や家族と買い物に行ったりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人希望により家族に電話したり、荷物が届いた時にはお礼、近況報告をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが安全・安心して過ごせるように、居心地の良い空間作りを工夫している。施設の設計段階から関わり、採光・通気・廊下スペース・バリアフリー等、高齢者に配慮された作りとしている。廊下には入所者の写真を飾ったり台所・廊下にソファを置きゆったりとくつろげるようにしている。	玄関先にベンチを設置し、散歩の前後で一休み出来る場所として活用している。共用空間は自然の風が通るよう配慮し、壁には行事の写真が掲載されている。対面キッチンから職員は利用者が活動している姿を確認することが出来る。居間には、高床の畳間やソファを配置し寛げる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等は自然と座る場所が決まっています、食卓でも気の合った人が会話を楽めるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた寝具を持ってきたりお孫さんからの似顔絵のプレゼントや写真を貼ったりしている。施設ではベット・畳のみを準備し、いままで自宅で慣れ親しんだ物を持参してもらうよう働きかけている。ベットの向きを変えたり、ご本人の希望でマットレスを使用している部屋もある。	居室には、整理ダンスやベット、手洗いが設置されている。入居者は寝具や衣類、時計、ボックス等を持ち込んでいる。入居者の状態に合わせて、1部屋は畳を敷いて、マットを使用している。壁には、家族の写真やお孫さんが書いた絵を飾る等居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の部屋に表札をつけ自分の部屋と分かるようにして、部屋の中も危険な物を出るだけ置かないようにしている。		